



I 目指す学校

人権を尊重した教育のもと、生徒一人一人のライフステージを見通し、自立と社会参加に必要な確かな学びを実現する学校を目指す。

- 1 生徒の夢や希望をかなえる学校。
- 2 生徒が地域の中で自信とやりがい、誇りをもてる学校。
- 3 普通科、職能開発科、八丈分教室の連携・相乗効果による、特色のある学校。
- 4 保護者、地域、社会からの期待や要望に応える学校。
- 5 教職員が教育公務員としての自覚と誇りをもって、より良いライフキャリアを実現する学校。

【教育目標】 生徒の可能性を最大限に伸ばし、生徒一人一人の社会的自立を目指す。

- 1 互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある生徒を育てる。
- 2 社会の一員としての自覚と責任を促し、社会に貢献しようとする生徒を育てる。
- 3 働く喜びを知り、地域の中で豊かに生活できる生徒を育てる。
- 4 自ら進んで学び、主体的に行動できる生徒を育てる。
- 5 基礎的・基本的な学力と教養を身に付け、個性と創造力豊かな生徒を育てる。

【目指す生徒像】 生徒が、「豊かな社会生活を送る姿勢、知識や技術を身に付けること」を目標とする。

- 1 目標に向かって挑戦し、最後までやり遂げる人 / 自ら考える力、学ぶ意欲を育てる
- 2 みんなに優しく、個性あふれる人 / 豊かな感性と、自分を表現する力を育てる。
- 3 多様性を認め、人に優しく、柔軟性のある人 / 仲間を思いやり、共に活動する力を育てる。
- 4 社会人、生活者として人生を輝かせる人 / 基本的な生活習慣を養い、健康で豊かな心と身体をつくる。

【校訓「誠実・敬愛・飛躍」】

「誠実さによって周囲との信頼関係を築いていくこと、他者を認め尊敬や感謝の心で共感すること、自らの可能性を追求する姿勢をもち挑戦すること」を大切にす。

II 中期的目標と方策

社会全体の変化がますます加速する中、デジタルの進展により、タブレットPCやAIの活用が広がり、子どもたちの学びのスタイルは大きく変化し続けている。学校は、こうした変化に柔軟に対応するとともに、インクルーシブ教育の推進、学びの多様性への対応、生命尊重（SOSの出し方）、さらには教員の働き方改革や人材育成といった東京都の教育課題について、着実に取り組みを進めていくことが求められている。

そのような中、本校においては、新校舎移転までの三軒茶屋校舎の使用期間が令和12年8月まで延長されることが確定した。引き続き、三軒茶屋校舎での教育活動の充実を図るため、現在の環境や施設の特性に応じた学習活動の工夫を進めていく。特に、環境の影響を受けやすい校内行事については、学校評価や保護者アンケートを有効に活用し、限られたリソースの中で最大限の効果が得られるよう、継続的な改善に取り組んでいく。あわせて、3月に卒業した職能開発科第1期生にも対応した「卒業後の支援までを見据えた進路指導・キャリア教育」の充実にも努めていく。また、今年度は開校80年目の節目の年に当たっている。来年度の80周年に向けた準備を進めるとともに、この節目を契機として教育活動全体の充実と魅力の向上につなげていく。

この他、八丈高校との協働的な学びを進める八丈分教室、そして連携販売や合同移動教室でつながる普通科の取組など、それぞれがお互いを意識・連携することで「二科一分教室」の相乗効果を発揮し、引き続き本校ならではの学びの充実に努めていく。そのためにも、引き続き『優しく』を本校のすべての教育活動における基本的な取組姿勢とする。ここで示す『優しく』とは、「心を込めて丁寧に伝えること」によって、「伝わり」、そして「つながる」ことを意味する。このような、つながりが広がる中で、互いのウェルビーイングも高めながら、生徒一人一人の「豊かな社会生活」につながる学びを実現していく。方策として、以下の四点を示す。

- 1 優しく ⇒ 心を込めて、丁寧に = 愛情 ※全ての活動の置ける取り組み姿勢の基本。
 - ・学習指導：わかるように、伝わるように、優しく指導。（知識・技術の伝達だけでなくその背景も）
 - ・進路指導・生活指導：優しく寄り添い 課題の解決や成長に導く。（目標を保護者としっかり共有）
 - ・学校経営：変化の激しい時代への柔軟な対応、新たな挑戦には、その根底に支える優しさが必要。
- 2 ウェルビーイングの向上
 - ・生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。この理解と、目標としての定着。
 - ・個人が獲得・達成する能力や状態（獲得的要素）だけでなく、人とのつながり・関係性（協調的要素）に基づくウェルビーイングの向上を図る
 - ・働き方改革の推進・継続による、ライフ・ワーク・バランスの改善充実
- 3 DXの推進
 - ・教育活動のデジタル化と執務全般のデジタル化を推進する。
 - ・そのための校内環境の充実やデジタル活用に向けた指導力の向上を図る。
 - ・デジタルを活用した指定事業（デジタルを活用した芸術教育）の取り組みを着実に進める。
 - ・一人一台端末を全ての教育活動（各教科、行事他）で活用し、新たな学習活動の創出に挑戦していく。
- 4 専門性の向上と人材育成
 - ・確実な「分かる」を目指し、「主体的に取り組む力」を育てる指導の充実・改善
 - ・生徒一人一人の進路決定、卒業後の社会参加と自立に向けた進路指導・生活指導の充実・改善
 - ・外部専門家との連携や、内外の研究活動、指定事業等を活用した専門性の高い人材の育成
 - ・職層・経験・役割に応じた計画的な配置と分掌で、組織的な人材育成を進める。合わせて管理職候補者の発掘・育成も図る。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

1 学習指導

全ての生徒の人権を尊重し、一人一人の障害の特性等に応じた指導を重ね、生徒がもつ力を最大限に伸ばす。

- ① 新体制2年目の作業学習（普）、3学年体制の専門教科（職）、高校と連携した学習（分）の充実・推進
- ② 個々に応じた学習内容の充実と、一人1台端末等を活用した教育を推進する。
- ③ 個別指導計画・生活支援シートを活用した目標の共有とPDC Aサイクルによる学習の改善・充実。
- ④ 読書活動（読み聞かせ、調べ学習）の推進・充実と、図書館運営の改善・効率化、情報発信
- ⑤ 生成系AIやプログラミング教育（プログラミング的思考）等も取り入れた生徒のICT活用力の育成
- ⑥ 一人一人に応じた健康・体力の保持増進及び運動技能の向上。（体育健康教育の推進）
- ⑦ 地域と連携した活動、高等学校とのインクルーシブな教育活動の推進。

（数値目標）

- ・学習指導の満足度平均（保：8.0以上、教：7.0以上）
- ・研究授業（各教員年1回以上）

2 進路指導・キャリア教育

働くためのワークキャリア、生活するためのライフキャリア、両方を見据えたキャリア教育の充実を図る。

- ① 保護者向け進路説明会等、進路に関する情報提供の改善・充実（資料冊子の作成、オンデマンド等）
- ② 現場実習等、進路にかかわる体験活動の改善・充実（生徒自身による、自分が活躍できる進路選択の実現）
- ③ ハローワークや近隣地域企業、世田谷区・目黒区・八丈町など連携した進路指導の充実。
- ④ 卒業生の定着支援に向けた仕組みの再構築（関係機関との連携や本人講座（公開講座）の改善）
- ⑤ 教員の進路指導力、多様な進路先への対応力の向上。（校内研修の充実や外部研修会の活用を推進。）
- ⑥ 各種検定試験や資格試験等を活用した指導の充実・推進（情報、清掃技能、喫茶接客サービス、等）

(数値目標)

- ・進路指導の満足度平均（保：8.0以上、教：7.5以上）
- ・卒業生の進路先決定(100%) ・企業就労 100%（職）

3 生活指導

安全安心な生活指導、安全教育・防災教育の充実、危険予測・危機回避能力の向上

- ① いじめや体罰・自死の防止等、人権と命を大切にする指導の推進（生徒の相談しやすい環境の整備・醸成）
- ② 「SNS青鳥ルール」の徹底など、デジタル社会において被害者や加害者にならないための指導を推進。
- ③ 登下校時の安全指導の徹底（スクールバス、放デイとの連携、一人通学の安全確保）。
- ④ 地震、火事、など災害に応じた現実的な想定による避難訓練の充実と、避難所を想定した整備の推進。
- ⑤ 三軒茶屋校舎、八丈分教室、それぞれに応じた熱中症対策など教育環境の整備の徹底と改善・見直し。

(数値目標)

- ・生活指導の満足度平均（保：8.0以上、教：7.0以上）
- ・生徒事故 0件（いじめ、体罰、自殺、学校管理下での遊出・行方不明、スクールバス降車忘れ事故 等）

4 特別活動・部活動

- ① 各種行事の安全・着実な実施と、状況の変化やニーズに対応する改善の継続
- ② 体育祭や青鳥祭、宿泊学習および校外学習等、行事に関する情報の円滑な保護者周知と連携
- ② 伝統・文化・芸術に触れる機会の継続。（茶道、お琴、他）。
- ③ 地域と連携した活動、地域に貢献する活動を推進する。（街づくり、交流ポッチャ、図書館 他）
- ④ 適正な指導体制と活動計画に基づく安全・安心な部活動の充実と、各種大会等への参加の推進
 - ・生徒の人間的な成長を第一に考えた指導を行う。
 - ・意図的・計画的に「やり抜く力、働き続ける力（GRIT）」に必要な経験をさせる。
 - ・卒業後の余暇活動の充実につなげる。

(数値目標)

- ・特別活動・探究・部活動の満足度平均（保：8.0以上、教：7.0以上）
- ・各部活動大会参加(各年1回以上)

5 教育相談・入学相談、募集・広報活動

DXによる業務の効率化を積極的に推進

- ① コーディネーターを中心に「2科1分教室」が連携し、組織的に対応する。（DXの活用、効率化）
- ② 効率良く、かつ安全・着実に必要な情報が交わせるよう、配布物や提出物の電子化を積極的に推進する。
- ③ 職能開発科の入学選考に係る業務への組織的な対応と確実な実施（人材育成と事故防止）

(数値目標)

- ・職能開発科説明会参加者 500人以上、個別相談 100人以上

6 保健指導・給食

- ① スクールカウンセラー、臨床心理士等と連携した生徒指導体制の充実
- ② 医療的ケアに適切に対応できる、人材確保と育成、物品購入・管理、研修等を計画的に進める。
- ③ 除去食等、確実なアレルギー対応と緊急時を想定した研修の実施。
- ④ 形態食の適性・円滑な実施と、安全で美味しい給食の提供（楽しい給食の時間）
- ⑤ 食育、感染症予防、健康づくりなど、教育活動全体を通じて推進する。

(数値目標)

- ・保健・給食の満足度平均（保：8.0以上、教：7.0以上 ※生徒：90%） ※生徒は肯定的評価の割合
- ・生徒のメンタルヘルスケア・医療的ケア・アレルギー対応に関する研修(各年1回以上)

7 学校経営

「優しく」を大切にした学校経営で、ウェルビーイングの向上とDXによる業務の効率化を推進する

- ① 人権尊重を第一に良好なコミュニケーションに基づく学校経営（優しく、心を込めて、丁寧に、⇒ 伝える・伝わる）を推進。
- ② 普通科・職能開発科・八丈分教室が連携・協力できる学校組織・風土を醸成し、教育系職員と行政系職員など、多職種が一体となり組織的な教育が推進できるよう努める。
- ③ デジタル社会に対応した学校(教育のDX)、人に優しく地球に優しい学校(SDGs)、働くために必要な経験を提供できる学校(GRIT)を創造していく。
- ④ 都立八丈高校や都立学校教育部と連携し、八丈分教室の成果を、島しょ部における特別支援教育および高校と特別支援学校のインクルーシブな取り組みとして発信する。
- ⑤ 全教職員のウェルビーイングの向上、ライフ・ワーク・バランスの充実を図り、心身の健康と指導の充実につなげる。
- ⑥ 若手育成研修（1年次6名、2年時6名 3年次4名）の授業研究と授業後の協議会の充実。
- ⑦ 教職員一人一人が地方公務員・教育公務員として使命を全うできるよう、研修等によるサービスの徹底を図る。
- ⑧ 近隣の地域や大学・高校等と連携し、教育活動の活性化を図る。また、部活動など交流活動を通じ、多様性の理解が進むよう、社会へ情報発信していく。
- ⑨ SNS、HPによる情報発信の質と量の拡充。（外部専門家の活用と校内体制の整備）
- ⑩ 80周年に向けた活動の推進（各種教育活動への反映、次年度の記念誌発行に向けた取り組み 他）

（数値目標）

- ・学校経営への満足度平均（保：8.0以上、教：7.0以上 ※生徒：90%以上）※生徒は肯定的評価の割合
- ・人権に関する研修(年3回以上)
- ・八丈分教室への校長訪問(年10回以上)
- ・月45時間超過勤務者(月平均0名以下)
- ・大学や地域との連携(10団体以上)
- ・サービス事故(年0件)

8 学校事務

- ① 計画的で適正な予算の執行管理を行う。
- ② 各種給付金など学事を、生徒が安心して本校の教育が受けられるよう保護者と連携して行う。
- ③ 生徒が効果的で安全に学習ができるように施設・設備を整え、物品を管理する。
- ④ 校内美化や廃棄物処理等を行い、学習環境の維持・改善を図る。
- ⑤ 教職員が安心して働けるように、福利厚生や労務管理を適切に行う。

（数値目標）

- ・学校事務に関する事故(年0件)

